

令和5年度点検・評価シート

評価 A:期待以上 B:期待どおり C:やや下回る D:期待以下

番号	事務事業名	事業の目的	事業内容	決算額(円)	事業の成果と課題	評価・コメント
1	立科教育推進事業	(1)特別支援教育事業 児童生徒の適切な就学や教育上特別な支援を要する児童生徒の就学支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 立科町教育支援委員会による対象児童生徒の適切な就学についての検討。 支援を必要とする児童生徒の就学支援。 町費講師 小学校5人 町費講師 中学校1人	#REF!	立科町教育支援委員会を開催し、保護者より申込みのあった児童生徒の適切な就学支援を図りました。支援を必要とする児童生徒は、巡回相談、就園・就学面談及び個別支援計画を作成し、切れ目のない支援を図るため、講師を配置し、子どもの育ちにあった手厚い支援を実施しました。	B
		(2)不登校対策事業 心理的要因等により不登校となっている児童生徒に対し、学校生活への復帰、集団生活への適応、基本的生活習慣の改善等のための相談・指導を行う。	支援を必要とする児童生徒への学習活動等のサポート。 町費講師 中学校1人	#REF!	不登校となっている児童生徒に対し、学校生活への復帰、集団生活への適応ができるよう支援講師を配置し、早い時期からの相談や指導等、きめ細やかなサポートを行い、不登校対策に努めました。登校支援室や中間教室等、個々に応じた支援により、登校できる環境づくりを図りました。	
		(3)教育推進事業 「すべての子どもたちに〈生きる力〉をつける」ことを目標に、保・小・中・高が連携し、TT授業や学校間連携等の事業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 算数や数学の学力向上のため、小・中・高に講師を配置し、異校訪問によるTT授業を実施。 保・小・中・高の教職員研修会を年2回実施。 コミュニティスクールを実施。 	#REF!	保育園・小学校・中学校・蓼科高校が連携し、学校間連携教育を行いました。小・中・高校に講師を配置するとともに、異校訪問によるTT授業を実施しました。今年度は、保・小・中・高の教職員研修を2回実施しました。小・中・高の児童生徒が小学校に集まり「笠取峠のマツ並木」について、一緒に考え交流を深めることができました。コミュニティスクールでは、地域の皆様を講師に迎え、読み聞かせ、米作りやりんごの学習を実施しました。また、中学生は、町内の企業へ職場体験を実施しました。	

番号	事務事業名	事業の目的	事業内容	決算額(円)	事業の成果と課題	評価・コメント
1	立科教育推進事業	(4)小・中学校入学支援事業 保護者の経済的負担の軽減を図り、子育て支援を推進。	令和6年度に立科小・中学校へ入学する児童生徒の保護者に対し、「通学用カバン」を現物支給。	#REF!	令和6年度に立科小・中学校へ入学する当町在住の児童生徒の保護者に対し、学用品の一部である「通学用カバン」を現物支給し、子育て家庭の経済的負担の軽減、少子化対策の推進、移住者促進を図りました。	B
		(5)小・中学校児童生徒給食費無償化事業 保護者の経済的負担の軽減を図り、子育て支援を推進。	学校給食費を無償化。対象者は、当町在住の児童生徒。町外の小・中学校へ通学の児童生徒は補助金支給。	#REF!	令和4年11月から、小・中学校児童生徒の学校給食費を無償化し、保護者負担の軽減、子育て支援等の推進を図りました。 無償化の対象者は、当町在住の児童生徒とし、町外の小・中学校へ通学の児童生徒については、補助金による支援を実施しました。	
		(6)30人規模学級編成 県基準35人以下になると1学級編成となることから、2学級編成を行う。	立科小学校2学年を2学級編成とし、最適な学びの場を提供。 町費講師 小学校1人	#REF!	令和5年度の学級編成では、立科小学校2学年を2学級編成とし、最適な学びの場の提供に取り組みました。 なお、町独自の立科小学校30人規模学級編成は、令和6年度以降も継続します。	
2	地域高校育成支援事業	蓼科高校育成支援	<ul style="list-style-type: none"> ・通学バス運行補助 ・運動部活動補助 ・学校広報紙作成 ・学習塾運営等の実施 	#REF!	<p>地域高校である蓼科高校育成支援を目的に、通学バス運行補助、運動部活動補助、生徒募集活動、広報活動の補助等を行いました。通学バスについては、継続して、田中駅・東小諸駅・中込駅から通学バスを運行しました。蓼科高校への入学者が減少し、それに伴うバス運賃収入の減少や燃料費高騰等によるバス委託料が増え、通学バス運行補助の増額が課題となっています。</p> <p>平成27年度に蓼科高校の敷地内に設置した「学習塾ポブラアカデミー」は、進路実現に向けた教科学習をはじめ、入試対策(面接・小論文)及び就職試験対策にも対応しています。</p>	B
3	学校施設整備事業	<p>(1)安心・安全な学校生活の提供</p> <p>(2)教育環境の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校校庭遊具の更新・修繕 ・小学校・中学校施設の照明器具LEDに更新 	49,841,000	<p>小学校・中学校がより快適に、また、安心・安全な学校生活を送れるように施設整備等を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭の遊具を更新・修繕(ブランコ・鉄棒) ・小学校・中学校施設の照明器具をLEDに更新し、教室が明るくなり学習環境が向上しました。各施設の老朽化が進んでいるため、計画的に施設整備を実施する事が 	B

番号	事務事業名	事業の目的	事業内容	決算額(円)	事業の成果と課題	評価・コメント
					が定まっているため、計画的に施設整備を実施することが財政面等から課題になっている。	
4	情報教育推進事業	ICT教育の推進。	整備した児童生徒1人1台のタブレット端末等を活用し、学校における教育の情報化を推進する。	#REF!	小学校では、漢字の書き順の習得、生き物の写真撮影、児童会の資料作成等で、中学校では、生徒がノート代わりに、生徒自身の意見をまとめ、レポート提出、生徒会アンケート調査、総合学習のまとめ等で、タブレットを有効活用しています。	B
5	ALT配置事業	英語指導助手を配置し、直接生きた英語を学び、国際理解教育の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に週4日、ALTを配置(1人) ・中学校に毎日、オレゴン市姉妹都市親善大使兼ALTを配置(1人) 	#REF!	小・中学校に英語指導助手を配置し、直接生きた英語を学び、発音・リスニング等の学習を実施しました。	B
6	指導主事配置事業	学校教育活動の深化と活性を促進するため、教職員に助言と指導を行う。併せて、児童生徒の健全育成支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・校長・教頭への助言 ・教職員への助言と指導 ・児童、生徒、保護者等との教育相談 ・定例教育委員会にて指導主事報告 	#REF!	<p>教職員の授業力向上のための研修会を企画・実践し、日常的に授業実践への参加と指導を行っています。</p> <p>また、県内各小・中学校から依頼を受け、研修会等の講師を務め、指導主事のスキル向上に取り組んでいる。</p> <p>毎月、定例教育委員会において、小・中学校の様子を報告しています。</p> <p>なお、教育相談員も兼務しており、保護者等からの相談等に親切・丁寧に対応している。</p>	B
7	児童館運営事業	放課後児童の安全確保と子育て支援を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ運営 ・放課後子ども教室運営 ・子育てママの支援 	10,854,505	<p>児童館来館者数17,924人</p> <p>児童クラブ登録者30人(令和6年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブは、午後7時まで、共働き家庭等の児童を預かり、安心・安全な子どもの居場所を確保・提供している。 ・放課後子ども教室を、延べ115回、地域の皆様を講師に迎え開催し、様々な体験教室を実施することができました。特に、コロナ禍で実施できなかった学習・スポーツ教室を再開したことで、多くの児童の参加がありました。地元講師の方々の高齢化が進み、講師確保が課題です。 ・未就園の親子を対象に事業を年65回開催し、子育て中の親子への支援を図りました。 	B

番号	事務事業名	事業の目的	事業内容	決算額(円)	事業の成果と課題	評価・コメント
8	保育園運営事業	働く保護者の様々なニーズに対応する。	長時間保育・土曜日保育・一時保育の実施	86,322,865	長時間保育・休日保育・一時保育を実施し、保護者の就労に対応した保育を実施している。	B
		全ての子ども達に「生きる力」をつける。 教育的プログラムの推進	「知」「徳」「体」を培い生活習慣の形成を図る。 ・運動遊び・英語であそぼうの実施		「生きる力」の基礎「知」「徳」「体」を培っている。 運動遊びを通して、体を動かす楽しさを知り、身体機能の向上にも繋がっている。「英語であそぼう」は中学校ALTの先生の交代で実施できなかった。	
		子育て相談・特別支援教育の推進	子育て相談や保育園と小学校が連携し、切れ目のない支援を行う		巡回相談・就学面談・個別面談により、個々に寄り添った支援ができた。保育園と小学校の連携を密にとることでスムーズな就学に繋がることのできた。 子育て相談も通年実施し保護者の相談に寄り添うことができた。	
		保護者が保育体験を行い、園への理解を深め、育児力向上にも繋げる。	参加型保育の実施		保育園での姿や友だちとの関り、保育士の対応などを実際に見て感じることで、園に対する理解が深まるとともに、家庭での育児の参考にもなっている。	
		保護者の負担軽減	・3歳以上児副食費無償化の実施 ・使用済み紙おむつ持ち帰りを廃止		3歳以上児の副食費無償化は町内に住所のある園児を対象に行っている。令和6年3月 107名 使用済み紙おむつ持ち帰り廃止は、保護者の負担軽減に繋がっている。	
9	社会教育事業	(1) 二十歳の式典	・当町出身の二十歳の青年を祝う式典	222,490	民法改正により、成人年齢が18歳に引き下げられたため、令和4年度より、これまでの「成人式」を「二十歳の式典」に改称し式典を開催しています。令和5年度は、コロナの影響により中止となっていた祝賀会を含め開催することができた。	B
		(2) 立科町の子どもたちの剛健な肉体、健全な精神、規律ある子供たちの育成	・スポーツ少年団 ・スキー教室 ・少年スポーツ大会等 ・健全育成推進センター		2,731,020	

番号	事務事業名	事業の目的	事業内容	決算額(円)	事業の成果と課題	評価・コメント
					は9チームの参加があった。	
9	社会教育事業	(3) 姉妹都市オレゴン市との友好を深め、国際的に活躍できる人材の育成を図る。	立科町は、1974年にオレゴン市と姉妹都市提携を結び、以降、立科中学生の派遣事業を隔年で実施している。	#REF!	中学生オレゴン市派遣事業を計画していましたが、感染症対策のため、中止となりました。	B
10	公民館運営事業	(1) 生涯学習の場の提供と地域住民の交流活性化	青少年教育・女性教育・すずらん学級等、生涯学習講座の開設。	5,009,467	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響で中止となった令和4年度文化祭の代替イベントとして、「夏まつり公民館文化発表会」をケーブルテレビで放送した。3月には4年ぶりの「立科町文化祭」を開催し、年度内2回目の発表機会を設け、グループ活動を活性化することができた。 ・社会教育委員や地域包括支援センター、他自治体等のみなさんに協力をいただきながら講座を開催することができている。来年度も他団体と連携し、多くの講座を開催していきたい。 ・ダンス教室を複数回開催したが、グループ立ち上げには至らなかった。来年度は、事前に需要のある内容を調査してから、講座を開催したい。 	B
		(2) 図書室運営	読書活動の推進。	3,098,752	<p>中央公民館図書室は、町民の生涯学習の場として、情報の提供を行い、地域を支える情報拠点、交流の場となっている。特に町民からのリクエストで購入するリクエスト本は、他の利用者からの評判が良く、貸し出し回数も多くなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数、貸出冊数ともに前年度を上回る数値で推移している。 ・Wi-Fi環境の整備を行い、図書室利用者の利便性向上に努めた。 ・協働電子図書館「デジとしょ信州」普及のため、体験用タブレットを設置した。 ・貸出資料を蓼科出張所でも返却可能とし、利用者の利便性が向上した。 	

番号	事務事業名	事業の目的	事業内容	決算額(円)	事業の成果と課題	評価・コメント
11	社会体育事業	町民の体力向上、技術向上、町民同士の親睦を深めること等を目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> 各種スポーツ教室 歩け歩け大会 冬季スポーツ大会等 	2,217,884	令和5年度は、4年ぶりに分館対抗球技大会・歩け歩け大会・ふらばーるバレー大会を開催しました。4年ぶりということもあり、分館対抗球技大会・ふらばーるバレー大会では、参加者の皆さんは、楽しくプレーをしていました。練習から大会にかけて町民同士の親睦を深める良い機会となった。	B
12	文化財保護事業	町内の文化財(特に笠取峠のマツ並木)の維持・管理・保存、有効活用。	<ul style="list-style-type: none"> 松並木は保存管理計画に基づき、樹勢回復事業を実施 次世代松の育成 	3,803,076	<p>平成22年度から、継続して樹勢回復事業を実施しており、令和5年度も土壌改良等を実施した。また、樹木医により現存するアカマツの状態観察を実施。現存する指定木は145本(令和6年3月)。</p> <p>平成29年度開始のマツ並木の古木から採取した種から苗を育てる次世代マツ育成事業は、例年行っており、令和5年は松並木の学習を行った小学6年生により6本の植樹ができた。</p>	A
13	人権教育推進事業	一人ひとりの人権が尊重される地域づくり。	<ul style="list-style-type: none"> 人権意識の高揚を図るため、分館人権教育指導者養成講座を2回開催し、分館における人権学習会、人権を考える町民大会等を実施。 学校、企業等、ありとあらゆる場において人権教育啓発を推進する。 人権教育推進協議会 人権を尊重する企業連絡会 保育園・学校人権教育連携 	3,038,739	<p>人権意識の高揚と啓発のため、町民に対しては、各地区指導者への養成講座、各分館での人権学習会、人権を考える町民大会を開催するとともに、保育園・小・中・蓼科高校合同で人権教育研修会を行い、幅広く人権教育を推進した。</p> <p>令和5年度は、人権学習会や人権を考える町民大会等を参集型で開催することができた。</p> <p>なお、「立科町部落差別撤廃とあらゆる差別をなくすことをめざす総合計画」を更新した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分館人権教育指導者養成講座 127名参加 人権分館学習会 33分館 353名参加 人権を考える町民大会 71名参加 人権を尊重する企業連絡会 36事業所参加 保育園・学校人権教育研修会 90名参加 	B

番号	事務事業名	事業の目的	事業内容	決算額(円)	事業の成果と課題	評価・コメント
			・男女共同参画推進委員会		・男女共同参画事業として、町・池田町・高森町・長野県男女共同参画センター共催で講座を開催、13名参加。	